

令和6年度第2回狹山市協働推進委員会会議録

開催日時：令和6年11月7日（木）午後2時00分から3時20分まで

開催場所：市役所7階 職員研修室

出席者：狹山市協働推進委員 10名

事務局：自治文化課 課長 主幹 主事 計4名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議題

（1）令和6年度提案型協働事業の中間報告について（4月～9月）

【人生100年時代の音楽健康レクリエーション「ヨッコラショーズ」】

《委員からの質問》

- ・活動報告では、「参加者の一部は諸々の要求が強く、協力の意識が薄い。」とあるが、具体的にはどのような要求がでているのか。
→具体的な要求については不明なため、後日団体に確認し、報告する。

- ・支出について、講師への謝礼金が大きいように見受けられるが、独立して運営していくにあたり、運営費の確保について考えはあるか。また、参加費を上げることは考えているか。
→後日団体に確認し、報告する。

《委員からの意見》

- ・団体の代表あつての事業であるが、素晴らしい事業なので今後も継続してほしい。行政側でも地区センターや公民館で活動を取り入れられないか検討するなど、継続のための方法を共に考えていくことが望ましい。

【にじいろ体操教室】

《委員からの意見》

- ・しっかりと見守りがされているなかで子ども達がいきいきと体操をしていた。また、父親も参加している様子も見られた。
- ・子どもにとってだけではなく、母親にとっても引け目を感じずに輝ける場所になっていると感じた。

【狹山市探訪ウォーキングマップの制作】

《委員からの質問》

- ・収支報告書の収入に参加費として62,000円とあるがこの金額は2回実施されたウォーキングイベントの参加費ということか。また、その場合は一人何

円で実施したか。

→参加費はウォーキングイベント「狭山散策ツアー」のものであるが、一人の参加費が何円かは不明なため、後日団体に確認し報告する。

- ・収支報告に保険料の記載がないが、イベントの際は保険に入っているか。
→後日団体に確認し、報告する。

《委員からの委員》

- ・団体内に英語が話せる人がおり、外国人の対応ができていた点や、マップにQRコードを多用して、情報にアクセスしやすくしている点などが良かった。
- ・行政側もどのようなマップにしたいか意見を伝えている点が良かった。

【おさがり交換会】

《委員からの意見》

- ・開始1時間後に見学に行ったが、すでに人が多く物もほぼなくなっている状態だった。参加者に対して物が少ないようにも感じた。
- ・環境課の職員も一緒に活動しており、協働事業として活動できていると感じた。

【イベント型子どもの居場所づくり事業】

《委員からの意見・感想》

- ・指導をしないという性質であるため、初めて行くときには保護者が連れて行かないと難しい場合もあると感じた。
- ・居場所を作るという目的ではあるが、より事業を広げるために何か新しい取り組みをしたほうが良いと感じた。
- ・フードバンクから提供されたジュースやおやつを居場所に来た子ども達に配っており、フードバンクとも協力できていると感じた。
- ・ボランティアとして参加している高校生にとっても居場所になっていると感じた。
- ・当初は少人数で実施する予定だったが、参加者が多く来たときに、事業としてプラスだったのか、想定外で困ったことがあったのかを今後聞いてみたい。
- ・ボランティア募集については、活動の内容やどのような子ども達との関わり方が学べるのかが伝わるとボランティアに参加しやすくなると感じた。

【Hospitality Halloween 「AI クッキング（お菓子作り）、トリックオアトリート、フォトスポット」】

《委員からの意見・感想》

- ・会場に足を運び、ハロウィンの雰囲気を感じることができたが1回目ということもあり、一般の市民の方に浸透しているかについては疑問に感じた。主催側も次回以降では市民全体の祭りにつなげていけるように意識しているようだった。
- ・小学校の行事と重なっていることもあり、人を十分に集められなかったように見られる。行政側から、他の行事と被っていないか等の事前の情報提供も今後あると良い。

【災害時に活躍するアマチュア無線ネットワークの構築】

《委員からの質問》

- ・収支内訳の支出について、免許証申請料は個人の免許にかかった費用か、団体の免許にかかった費用か。
→予算書に免許申請料として団体の申請に係る費用が記載されているため、団体の免許取得にかかった費用であると考えられるが、詳細については後日確認する。

【協働事業全体について】

《委員からの意見・感想》

- ・協働事業の参加費や人件費について、上限等についても検討する必要があると感じた。
- ・子ども達に関わる事業である「集まれ、オンラインしゃべり場」や「にじいろ体操教室」は障害があるお子さんがいる家庭や、支援が必要な家庭と関わっている事業所とも、事業所のスタッフが子ども達を連れて参加していくという形で協力できれば良いと感じた。
- ・協働事業としてより事業の内容を市民に伝えていくことが重要である。
また、行政も良い事業については取り入れていくと、活動が広がりや継続につながる。
- ・事業を進めるうえで、参加する側の協力の意識が薄いという問題があるが、事務局からもその事業がどのように成り立っているのか参加者に理解してもらえるよう、各団体に対して事業のはじめに説明をしていくことが望ましい。

(2) 令和7年度提案型協働事業について

(3) スケジュールについて

4. 閉会